

一武蔵工業大学 柏門技術士会設立の背景と経緯一

(建学の精神を復興し会員 1000 人の技術士会を創造する)

武蔵工業大学 柏門技術士会初代会長 **五 艘 章** (41 土木卒)



関東大震災後の昭和初頭、我が国経済界は金融恐慌に見舞われ、銀行や企業の倒産が相次ぎ、失業者は甚に溢れ、東北地方では若い娘の人身売買が社会問題と成った。昭和 4 年、世界大恐慌が発生、厳しい社会情勢の中、真の工学教育を求めて東京高等工商学校を退学し『安心して勉学できる学び舎を新たに造りたい』と熱望する学徒 370 名余の願いを受けた及川恒忠慶応大学教授の尽力により昭和 4 年 9 月 10 日、武蔵高等工科学校が誕生した。創立者・及川恒忠は、昭和 6 年 2 月 1 日に発刊された「武蔵高工学友会会誌」創刊号に建学の精神『自由・公正・自治』について次のように述べている。

正しい事を正しく行えば、如何なる障害、如何なる困難に遭遇しようとも・・・諸君よ、願わくは協心協力、お互いの共同目的に向かって着実に剛健に奮闘して頂きたい・・・。
『志ある者は事つひに成る』とは千古不滅の真理・・・我々の志は、公正なる人格の陶冶と優秀なる工業技術の修得にある。恥を知り、正義公正こそ我等の心境である・・・。

同年 12 月には学生総数 378 名、教授陣 86 名が記録されている（武蔵工大 50 年史より）。

平成 16 年秋、その小さな一私学校が、苦難の星霜を経て、創立 75 周年の記念祝典を挙行する。建学の精神を受け継いだ 5 万有余名の卒業生が全国の高等工科学校、工業専門学校、大学の卒業生と鎬を削り奮闘努力した成果が、現在の武蔵工業大学の姿である。我が青春の故郷を築き上げられた諸先輩の労苦と努力に心から敬意と感謝を表したい。

21 世紀を迎え、我が国の私立大学は少子化と行財政改革に伴う国公立大学の独立行政法人化によって経営危機に見舞われている。この苦境下に、平成 15 年 1 月 14 日、有志 7 名が建学の精神を復興し、創立 100 年、200 年に向けて母校が永遠に飛翔し続ける事を願い、武蔵工業大学技術士会の設立を想起し集まった。

平成 15 年 9 月 20 日、堀川清司学長をはじめ山口裕啓五島育英会理事長、都市基盤工学科増田陳紀主任教授、皆川勝教授の献身的な指導と協力を得て、その願いが実現した。巻頭言を借りて改めて感謝の意を表する。以下に設立を想起した時代背景と設立までの経緯、活動方針および盛況裏に挙行された設立総会の様子を報告して巻頭言とする。

1. 技術者並びに高等技術者教育を取り巻く環境

1-1. 技術士制度（日本技術士会創立 50 周年記念特集号より）

昭和 26 年、日本技術士会が設立され、昭和 32 年の技術士法制定により公益法人（社）日本技術士会として現在に至っている。その間、世界一難関といわれる技術士試験に合格した数は平成 13 年度で 57,730 名におよび、登録者数は 10,286 名である。20 世紀末、我が国経済はバブル崩壊により低迷し、技術者や経営者の倫理観の欠如による信じ難い事故

が多発している。さらに世界のグローバル化に伴い、技術者資格の国際相互認証制度が始まり、平成 13 年 11 月に我が国を含む 7 カ国において APEC エンジニアの審査・認定・登録が実施され、平成 14 年からは米英日を含む 11 カ国が APEC 基準に合わせて国際・エンジニア（E M F）制度が発足している。

1－2. ISO と JABEE による高等技術者教育プログラムの審査

産業界を襲う国際標準規格 ISO の波は高等技術者教育にも波及し、平成 14 年度から日本技術者教育認定機構 JABEE（Japan Accreditation Board for Engineering Education）による大学工学系教育プログラムの審査が始まった。国際的要求基準を満たしていると認証された学科の卒業生は修習技術者として 4 年間の実務経験により技術士受験資格が与えられる。この審査を取得しない工学系学科は淘汰され、消滅する事は必至であり、国公立大学の生き残りを賭けた熾烈な競争が始まっている。JABEE の審査基準に「教員団に技術士等の有資格者、又は実務経験によって教える資格のある教員を含む事・・・」と明記してある。今後、大学教育に産業界で活躍している技術士の貢献が求められている。

2. 武蔵工業大学の現状

2－1. 武蔵工業大学が目指している教育

（1）堀川清司学長：総合力と創造性に富んだ人材の育成を目指す

わが国の経済はバブル経済崩壊を機に長期にわたって景気が低迷している。このような現状を打開することが政治的・経済的な大きな課題である。天然資源の乏しいわが国は科学技術の振興が今後とも重要な課題であるが、今日の成熟社会における工学技術者は幅広い素養を備える必要がある。本学では工学部と環境情報学部との教育・研究が相互に影響し合い、視野の広い教育の展開を行う事で、総合力と創造性豊かな人材の育成を目指している。

（2）教育理念：学生のための教育を中心に考える

本学は研究大学を指向するのではなく、教育に重点を置くと共に、教育の一環としての研究の遂行に努力する姿勢を鮮明にすべき時期に来ている。本学の教育理念として、あく迄も学生の教育を中心に考え、更には研究に向けて、教員が力を合わせて取り組む事をここに標榜する。但しこれは、本学の特色ある数々の研究の遂行を妨げるものではない。

（3）都市基盤工学科の特別教育：ケーススタディの重視

産業界の第一線で活躍している技術者により、今現在現実に動いているプロジェクトを中心とするケーススタディにより、社会に巣立って行く技術者が知っておくべき技術的・経済的・人間心理学的・政治的事項や心構え等を講義する。平成 15 年度 JABEE 審査を受審する計画を進めている。

2－2. 将来構想

（1）国際的基準に適合した高等技術者教育を展開できる体制を構築する

本学の研究活動の活性化を目的に平成 11 年 3 月に産官学交流センターが発足した。既存の研究室等も統合して総合研究所を設置して、構成員が適宜プロジェクトを遂行すること

が出来る体制を目指している。

JABEE により高等技術者教育を審査する活動が始まった。本学においても、工学教育の向上の為に、この機構に関心を寄せ、近い将来に認定を申請する体制を作りたい。

（２）産官学交流センターおよび MOT（Management of echnology）研究会の設立

産官学の交流を通じて社会（企業、地域、社会）からの必要性の高い研究テーマと研究資源を得て、学内の知識資源によってその解決を図ることにより社会貢献を果たしている。既に社会人として活躍している技術者或いは専門家にマネジメント教育の道を開くことにより、日本における産業の再活性化を図る事業として平成 13 年度経済産業省委託事業「先導的起業家育成システム実証事業」に取り組み、報告書としてまとめた。現在、大学院修士課程・MOT コースの開設に向けて準備が進められ、試験講義も始められている。

3. 文部科学省の「我が国技術立国」への構想

3-1. 遠山敦子（前文部科学大臣）による「遠山プラン」

- ① 国立大学の統合・再編
- ② 国立大学に民間の経営手法の導入（独立行政法人化、産学提携）
- ③ 大学に第三者評価による競争原理の導入（大学評価・トップ 30 構想）

平成 13 年 6 月、「国際競争力のある大学造り」を目指し上記の三本柱を提唱した。国公立を問わず、世界最高水準の教育研究拠点に重点的に予算を配分する「トップ 30 構想」を打ち出し、大学教育に対し、社会や経済の要求に応える研究・教育を求めている。

3-2. JABEE 審査の導入と技術士について

JABEE は大学の教員団に技術士や実務教育の出来る技術者の参加を求めている。ちなみに米国では教員の 90%が、我が国の技術士に相当する P E（Professional Engineer）の資格を有し、生きたケーススタディを講義していると報告されている。

4. 柏門技術士会設立までの経緯

平成 14 年 6 月 28 日、29 日に『JABEE による土木分野の審査員養成研修会』が開催された。武蔵工大から増田主任教授、皆川教授、丸山助教授、草柳客員教授が参加され、五艘も土木学会から要請を受け受講者 160 名の一員として参加した。この研修会に参加して時代は『大学教育に技術士が参画する事を求めている』事を強く認識した。

千葉県技術士会副会長を務める五艘は平成 12 年頃から（社）日本技術士会の堀内専務理事や畠山常務理事と「大学単位の技術士会設立」について懇談し、この時点では東京工大・蔵前技術士会（平成元年創立）、日大・桜門技術士会（平成 4 年創立）、早大・稲門技術士会（平成 14 年創立）が設立されており、中央大学が準備中である事を聞いていた。『今こそ武蔵工業大学技術士会の設立時期である』と感じた五艘は設立構想を練りながら協力者の出現に満を持していた。

平成 14 年 11 月 28 日、隈元力客員教授の紹介を得た松田洋紀君が来訪し、技術士会設

立の意義を熱心に語ってくれた。12月19日、多くの技術士の理解を得て、提供された情報を基に五艘と松田の二人で過去50年間に蓄積された1万有余名の技術士を調査し113名（建設44、電気電子33、情報8、その他28名）の武蔵工大OBを把握した。12月20日には増田陳紀都市基盤工学科主任教授から「設立に全面的に協力する」旨の力強い返事を頂いた。明けて1月8日に非公式に堀川学長に設立趣旨を説明し協力を御願いした。

1月14日、増田陳紀主任教授、皆川勝都市基盤工学科教授（56修士）、松本和生（34土）、隈元力客員教授（37土）、小林健郎（37土）、五艘章客員教授（41土）、松田洋紀（42土）の7人が集まり懇談会（第1回設立推進委員会）を開催、叩き台として五艘私案が提示された。2月14日の第2回委員会に田矢盛之（41土）、上高原健（41土）の両名が参加。3月4日の第3回委員会には合田和泰（50機）、中澤眞（47電）が加わり11名の委員（後に35年土木卒の五島育英会専務理事・山田秋夫氏の参加を得て12名）により設立趣意書、行動指針・行動計画、会則等の検討に取り組み、それまで五艘が会長代行を務める事に委員全員の合意をみた。翌5日、設立総会を平成15年9月20日に五島メモリアルホールに於いて開催する事を決定、堀川学長と産官学交流センターにその旨、報告を行った。報告を聞かれた堀川学長はその場で最高顧問就任を快諾された。卒業生の技術士資格保持者の調査は隈元客員教授により精力的に進められ、6月末迄に364名を把握した。

五島育英会、学校関係者、武蔵工業会幹部から理解も得られ、7月3日には山口裕啓五島育英会理事長（5月に秋山前理事長に代わって就任）から最高顧問就任の快諾を頂いた。また増田主任教授の尽力により大学院研究科長、学部長、学科主任教授、専攻主任教授に研究センター所長も含めた35名の顧問就任が教授会で承認され、ここに学校、五島育英会、卒業生の参加による（仮称）武蔵技術士会の構想が実現した。

平成15年9月20日、会員数404名（総合34建設281、水道13、電気電子38機械8、情報10、衛星10、経営7、金属2、繊維1）を擁する我が国有数の技術士会として設立総会が開催された。総会に先立ち堀川学長による「我が国の工学教育を語る」と題する記念講演会が行われた。大橋秀雄前日本工学会会長（JABEE 副会長）をはじめ多数の来賓、会員が拝聴される中、1989年土木学会会長を務められた学長は初代土木学会会長古市公威、琵琶湖疏水の田辺朔郎の紹介も交えながら、明治から現代に至る我が国工学教育について説明され、現代の工学教育の問題点を指摘し、大学と現業との連携の必要性を説き、柏門技術士会への期待を語られ、多くの出席者に深い感銘を与えられた。

会員80余名の参加を得て開催された設立総会に於いて、先ず会の名称を校章の柏に由来する“武蔵工業大学 柏門技術士会”に決定し、常任理事39名、理事8名、顧問37名を満場一致で承認した。ついで設立推進委員として尽力された山田秋夫理事から推薦を受けた五艘が初代会長に推挙され就任した。直ちに五艘会長から副会長、各委員会委員長、事務局長が任命され、ここに武蔵工業大学 柏門技術士会の陣容が整い、正式に誕生した。

祝賀会は来賓45名を迎え、130名を越す参加者を得て、初代事務局長・松田洋紀の司会により進められた。最高顧問・堀川学長の開会挨拶（後記）に引き続き、五艘から設立総

会の報告を兼ねて『柏門技術士会命名の由来』を引用して『母校の発展と我が国技術立国に貢献する』決意と母校創立 100 周年に向け今一層の協力・支援をお願いする旨の挨拶を行った。引き続いて多くの方々から頂いた祝辞と祝電はその詳細を本会報に別記する事にし、ここでは感謝の意を込めて御名前のみを明記させて頂く。

祝辞：倉持隆雄氏（文部科学省基盤政策課長・技術士担当）、大橋秀雄氏（工学院大学理事長、前日本工学会会長、JABEE 副会長）、清野茂次氏（日本技術士会会長・日大桜門技術士会会長）、内田 潤一氏（東京工大蔵前技術士会会長）、深尾正氏（電気学会会長・武蔵工業大学教授）、平谷憲明氏（世田谷区助役）、佐藤正則氏（日刊工業新聞社常務）、川井重勇氏（都議会議員・昭和 46 年土木）、川端隆司氏（武蔵工業大学後援会々長）

祝電：大畠章宏氏（衆議院議員、49 年機械修士）、草柳俊二氏（土木学会副会長、42 年土木）、安藤正博氏（日本技術士会副会長）、桑原洋氏（日立製作所技術士会会長）、副島信治氏（武蔵工業会理事長）、白川浩司氏（武蔵工業会元理事長）、梅原秀一郎氏（武蔵工業会元理事長）

祝賀会の中締めとして田矢盛之副会長（41 土、応用地質(株)代表取締役社長）から「何よりも重要な事は、技術士会の構成メンバーが志を 1 つにして継続的に活動する事である。武蔵工業大学柏門技術士会は本日発足したが、育てるのはこれからであり、なお一層のご支援、ご鞭撻、ご協力をお願いする」旨の挨拶が行われ、設立総会を終了した。末筆ながら設立に尽力された設立推進委員各位と御協力を頂いた関係各位に心から御礼申し上げる。

終わりに 東京高等師範学校（現筑波大学）校長として我が国教育界に偉大な足跡を残した嘉納治五郎（柔道の創始者）の教育観を紹介し、併せて母校と技術立国に貢献する為『会員数 1000 人の柏門技術士会を創造する』事を宣言して巻頭言とする。

教育之事 天下莫偉為
一人徳教 廣加万人
一世化育 遠及万世

「教育のこと 天下これより偉なるはなし 一人の徳教 広く万人に加わり 一世の化育 遠く万世に及ぶ」
嘉納 治五郎

母校と我が国技術立国に貢献する
会員数 1000 人の柏門技術士会を創造する

「目標：2015 年 柏門技術士会会員数 1000 名」

武蔵工業大学 柏門技術士会
会長 五 艘 章

（略歴）昭和 41 年、前田建設工業(株)に入社。東京支店管内現場所長、東関東支店初代土木部長、横浜支店土木部長、本社土木部部長を歴任。平成 10 年同社を退職、日本建設コンサルタント(株)に入社。技師長として国内外の建設工事の設計を指導。平成 15 年 2 月退社、4 月より武蔵工業大学客員教授に就任。（社）土木学会特別上級技術者（総合）フェロー、技術士（総合技術監理・建設）。